

(昭和11年6月26日受領)

カマツカ (*Pseudogobio esocinus*) に寄生する  
1 新吸蟲 *Steganoderma kamatukae* に就て

(挿圖 1 個)

A New Trematode, *Steganoderma kamatukae* from  
*Pseudogobio esocinus* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

(One Figure)

竹 内 衛 三

神戸熱帯病研究所

Eizo TAKEUTI

*Institute and Hospital for Seamen's and Tropical Diseases, Kobe*

Résumé

*Steganoderma kamatukae* nov. sp.

Body 1.05 to 1.43 mm long, 0.36 to 0.48 mm broad. Integument of the anterior part of body spiny. Acetabulum one third of body length from cephalic end, larger than oral sucker, 0.13—0.18 mm in diameter. Oral sucker subterminal, 0.11—0.14 mm in diameter; pharynx small, 0.05 mm in diameter; prepharynx and esophagus present. Caeca short, terminating at the middle level of body. Genital pore lateral, about at the central level of acetabulum.

Male organs: Testes more or less elliptical, lying symmetrically at the junction of the middle and last thirds of body. Cirrus pouch muscular, behind the acetabulum. Vesicula seminis large, bibulbous; pars prostatica undifferentiated; cirrus protrusile.

Female organs: Ovary heart-shaped, median, in front of testes. Uterine coils compact, between the genital pore and the posterior end of body. Vitellaria consist of an elongated aggregation of globular follicles, lateral, extending from acetabulum to the end of caeca. Uterine egg ovoid, yellow, 0.031—0.034 mm by 0.02—0.021 mm.

Habitat—Intestine of *Pseudogobio esocinus* (TEMMINCK & SCHLEGEL).

Locality—Lake Biwa, Japan.

This species differs from known species in the position of the genital pore and cirrus pouch.

本吸蟲は余が數年前カマツカ *Pseudogobio esocinus* (TEMMINCK & SCHLEGEL) に寄生せる *Tetracotyle* の發育史の研究に従事して居つた際偶然に同魚の腸管より採集されたものである。採集された個體は5個で總て壓扁全體標本として保存されて居るものである。詳細な研究をなす爲に新材料を得たいと其後幾度も採集を試みたが未だ再び材料を得る機會を得ぬので、本研究に徹底しない個所のある事は遺憾に思ふ所である。

本種は Zoogonidae 科のものであることは確かで、*Steganoderma* 屬に最も近似して居るも

のである。生殖孔の開口部が著しく後方に移動して居るので別属として取扱ふ可きものであるかとも思はれるが、詳細な比較研究をなすべき材料を持合せぬのでこの點將來の研究に俟ちたいと思ふ。

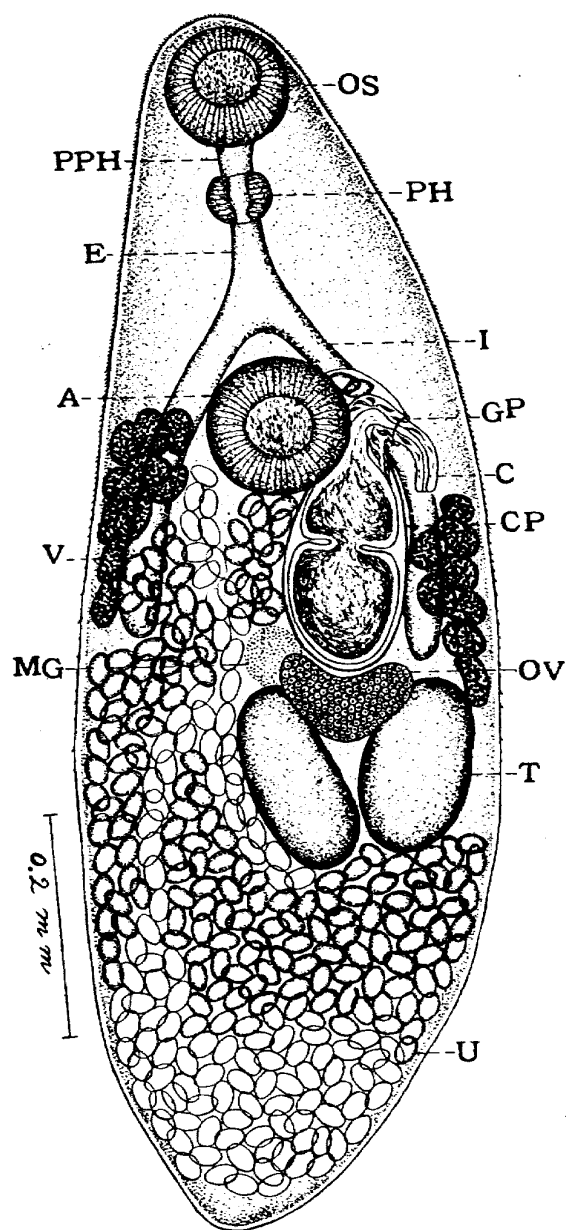
*Steganoderma kamatukae* sp. nov.

本吸蟲はカマツカ *Pseudogobio esocinus* (TEM-MINCK & SCHLEGEL) の腸に寄生す。壓扁全體標本に就て檢するに、體は長卵圓形にして兩極に於て稍尖る。體長 1.05—1.43 mm。體の最廣部は體の中央部或はそれよりも稍後方に在り、0.36—0.48 mm。體表には微小なる棘を前端部に密生して居るが、後方に至るに従ひて其數を減じ、體の後方 3 分の 1 にては發見するを得ない。

口吸盤は圓くして體の前端に於て腹面に開く。直徑 0.11—0.14 mm。腹吸盤は口吸盤よりも大にして體の前端より 3 分の 1 の所に在り、直徑 0.13—0.18 mm なり。

口吸盤に次いで短き前咽頭管 (長さ 0.03 mm) あり。咽頭は小にして球形を呈し直徑 0.05 mm。食道は比較的短く (0.08 mm)、腹吸盤の稍前方に於て 2 岐し左右の腸管と成り、體の中央部位に達して盲管狀に終る。

睪丸は 2 個にして卵巢の直後に位置を占む。左右の睪丸は常に略相稱的に配置されて居る。睪丸の形は正球形と云ふよりも稍延びた形を呈し、長徑 0.19—0.23 mm、短徑 0.09—0.15 mm。睪丸の部位は體後端より約 3 分の 1 の所に在りて左右のものは相接して居る。生殖孔は體正中線よりも稍左側に偏して腹面に開口す。多くは腹吸盤の中心の高さに於て左腸肢の腹面に相當する所に於て開いて居るが、或るものにては腹吸盤に接してその左側或は後側方に於て開口して居る。陰莖囊は筋肉質にしてよく發育す。全く腹吸盤の後方にあつて、その後端は卵巢に達す。長徑約 0.23 mm、最廣部の直徑約 0.11 mm。陰莖囊の大部分は精蟲にて充滿せる貯精囊にて占めらる。貯精囊は中央にくびられて 2 部分に分たる。前方細くなりて射精管に移行するが其



*Steganoderma kamatukae* の腹面圖

A	腹 吸 盤	OS	口 吸 盤
C	陰 莖	OV	卵 巢
CP	陰 莖 囊	PH	咽 頭
E	食 道	PPH	前咽頭管
GP	生 殖 孔	T	睪 丸
I	腸 管	U	子 宮
MG	メーリス腺	V	卵 黄 巢

間に明瞭な攝護腺部を形成せず。射精管の前端部は壓扁標本にては悉く翻轉突出して陰莖となれるのを見る。陰莖には顯著な棘を有せず。射精管の基部の周圍には少數の細胞の存在を見るが、攝護腺細胞は分化して居ない様である。

卵巢は正中線上に在つて、前方陰莖囊の後端部に接し、後方兩睪丸の間に多少箆まり、心臟形に近き三角狀を呈す。横徑約0.12 mm, 前後徑約0.07 mm。卵殼腺(メーリス線)は卵巢の右前方に在り。受精囊は之を缺くものの如く全體標本にてはその存在を明かにすることが出来なかつた。卵巢を出でたる輸卵管は卵殼腺に入りて卵殼形成腔となり次いで子宮となる。子宮は長き管狀を呈し先づ前方に走りて腹吸盤に達し、然るのち後方に向ひて體後端部に達し、再び前方に進路を轉じ迂曲した徑路をとりて Post-testicular space を全く埋め、更に前方に進みて生殖孔に達して外部に開く。子宮の前約3分1に於ける卵は無色の卵殼を有つて居るが殘餘の部分に於ける子宮卵は黄色を呈す。卵は規則正しき卵形にして蓋を有す。長徑0.031—0.034 mm, 短徑0.02—0.021 mm。卵黃巢は球形乃至卵圓形の胞よりなり腹吸盤より後方に於て腸肢の外側並に背腹側に在り、胞の大きさは約(0.04—0.06)×(0.03—0.05) mm。胞の數は一側に於て約十數個である。

本種は腸管の比較的短き點並に生殖腺の排置等よりして Zoogonidae ODHNER 1911 の *Steganoderminae* (= *Lecithostaphylinae*) に屬するものである事は明かである。同亞科中の *Steganoderma* とは生殖孔の開口部位が多少異つて居るだけで他は體制に於て全く一致するものである。既知の同屬のものはいづれも生殖孔が腸分岐點の高さに於て左側の縁線に近く腹面に開いて居るものであるが、本は腹種吸盤の中心或はその後縁の高さに於て正中線より少しく左側に偏して腹面に開口せるものである。従つて既知の3種即ち *St. formosum* STAFFORD, *St. fellis* YAMAGUTI, *St. Sebastodis* YAMAGUTI に於ては陰莖囊は全く或は殆ど全く腹吸盤よりも前方に存在するが、本種に於ては全く腹吸盤の後方に位置を占めて居る。尚ほ上記の3種は海産魚の寄生蟲であるが本種は淡水魚を宿主とするものである。

本稿を擧筆するに當り終始御指導を賜つた所長桂田富士郎博士並に文獻その他の點に於て便宜を與へられた尾崎佳正氏に敬意を表す。

文獻 MANTER, H. W. (1925) Some marine fish trematodes of Maine. Jour. Parasit., 12, (1). MANTER, H. W. (1926) Some North American fish trmatodes. Illinois Biol. Monog. 10, (2). ODHNER, T. (1911) Zum natürlichen System der digenen Trematoden. II. Zool. Anz., 37, ODHNER, T. (1911) Zum natürlichen System der digenen Trematoden. III. Zool. Anz., 38, STAFFORD, J. (1904) Trematodes from Canadian fishes. Zool. Anz., 27. YAMAGUTI, S. (1934) Studies on the helminth fauna of Japan. Part 2. Trematodes of fishes. I. Jap. Jour. Zool., 5, (3).